

手柄山温室植物園だより
シリーズ：姫路市に見られる身近な植物

29. スズメノヤリ（イグサ科スズメノヤリ属）

Luzula capitata (Miq.) Miq.

2015年3月

草地や堤体、畦畔などによく見られる多年草です。葉はやや湾曲し、縁に長い軟毛がありますが、個体により多少の差があります。また、先端は鈍頭で黒褐色で硬くなる部分があります。根出葉は線形～広線形で長さ4～10 cm、幅2～5 mm、花茎につく葉はやや小さく長さ2～5 cm、幅2～3 mmです。花は3～5月に5～15 cmの花茎の先に通常1個の頭状に密集した花序をつくり、雌性先熟性で雌性期と雄性期がある自家受粉を防ぐ構造になっています。本種を含む風媒花の植物は雌性先熟性が多いといわれています。花序の下に針状～線形の1 cmほどの苞を1～2個つけます。種子には半分程度の長さの附属体である種枕があり、種枕の有無や大きさが属内種の同定指標になります。分布は北海道、本州、四国、九州、朝鮮、中国、樺太、カムチャッカ、東シベリアで、姫路市においては草地などに普通に見られます。



スズメノヤリ



雌性期



雄性期